



Title	フィンランドにおける構成主義の受容
Author(s)	谷本, 尚子
Citation	デザイン理論. 2014, 64, p. 94-95
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/56384
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

フィンランドにおける構成主義の受容

谷本尚子／関西学院大学非常勤講師

1. はじめに

ロシアに源流を持つ構成主義運動は、中欧ヨーロッパにおいてはほぼ同時代に受容され、各国独自の変容を見せた。しかしロシア革命を契機に独立を宣言したフィンランドで、幾何学的抽象芸術やバウハウスに影響を受けた近代建築及び近代デザインが独自の成熟を見ることが出来るのは、1950年代以降である。

アメリカで構成主義運動への関心が高まった1970年代、フィンランド構成主義と名付けられた展覧会が、幾つか催された。発表では、1979年テキサス大学附属美術館での「FINNISH CONSTRUCTIVISM」展と、1980年ハンガリー国立美術館で催された「FORMA ÉS STRUCTÚRA」展のカタログを参照し、フィンランドにおける構成主義芸術の受容と変容について考察した¹。

2. 時代背景

フィンランドは、1920年代から第二次世界大戦の終わりまで、度々新生ソヴィエト連邦から侵攻を受けた。フィンランド国民のソ連嫌いは、反共産主義を掲げたラプラ運動と呼ばれる草の根運動にも現れている。

第二次世界大戦後、スターリン時代の最後の数年の緊張は1955年の秋まで続き、フィンランド政府や知識人達は、ソ連と良好な関係を維持することが最優先課題となり強迫観念にまで発展した。こうしたモスクワから敵対的と見なされうる言動の回避、自己検閲などを内在化したフィンランド人の精神状況を指して「フィンランド化」と言う²。フィンランドで構成主義運動の受容が遅れた理由の一

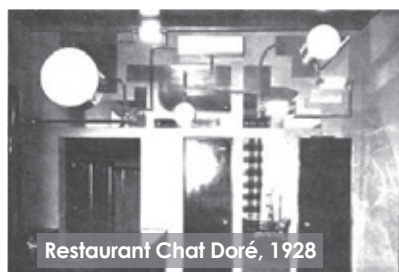
つ目は、こうした政治的理由が挙げられる。

3. フィンランドにおける構成主義

ロシアに始まる構成主義運動は、一方で20世紀に普及した新しい工業材料を用いてダイナミクスと空間構成を作り上げる建築・デザインを指し、他方では幾何学的な抽象を視覚特性とする絵画・彫刻と、従来の芸術分野を超えた造形表現の二つの解釈が知られている。今回参照した二つのカタログの内、ブダペシュトの展覧会カタログは、建築、デザイン、絵画、彫刻など広い範囲のフィンランドでの構成主義運動の受容を採り上げており、テキサス大学美術館の内容は、G. リッキーの構成主義論³に則った芸術論が基礎となった展覧会であった。

3-1. 様式から機能主義デザインへ

上述したように、フィンランドではロシア構成主義を同時代に受容する動きはなかったと考えられる。ただし J. Birger や J. Carlstedt は、パリのアンデパンダン展にも出展し、構成主義のインテリアデザインを残している。



しかしまたバウハウスの影響を受けた鋼管家具を制作したデザイナーは、A. アアルト

だけでなく、E. Strider, Göran Hongell, Kurt Ekholm 等、合理的・機能主義的な試みが1930年代には行われていた。こうした幾何学的な機能主義デザインを特徴とするフィンランドデザインが一般に評価されるようになったのは、1950年代の国際展での注目の結果だと言える。すなわち、海外での評価がフィンランド国内での近代化を推し進める結果となった。Kaj Franck のキルタシリーズや Ilmari Tapiovaara のドムス・チェア, Yrjö Kukkapuro の金属家具, Maija Isola のテキスタイル, Tapio Wirkkala の合板彫刻などは、数理的明快さ、ダイナミックスにおいて、構成主義デザインの代表だと、ミッコラは述べている⁴。

建築分野におけるフィンランドの構成主義デザインは、気候の影響もあり、ガラスと細い鉄のフレームとしてではなく、社会的な取り組みと構造体の表現として表れた。アアルトのパイミオ・サナトリウムでは、階段室とバルコニーに片持ち形式のダイナミズムが表現された。また、鉄筋よりは木造による建造物の取り組みなども、フィンランド構成主義の特徴と考えられた⁵。

1952年のヘルシンキオリンピック以降、建築は急速に工業化され、ロシア構成主義との親和性を感じさせる様式的な理解も現れてきた。Bengt Lundsten の乗船場は、動線と建造物の明快な方向性に、構成主義的なレイアウトが読み取れる。

3-2. 美術における構成主義の展開

絵画及び彫刻の分野で構成主義を牽引したのは、前述した Carlstedt である。彼は幾何学的抽象絵画を描き、1955年に設立された Group Espace のメンバーと共にパリの *Réalités Nouvelles* に出品している。

ヘルシンキ自由芸術学校の教師 Sam

Vanni と Unto Pusa は、彼ら自身と教え子達によって、1940年代から70年代まで続く幾何学的抽象絵画の一派を作り上げた。1950年代終わりに結成された絵画と建築の協働を目指した Group4 のメンバーは、彼らの教え子であった。

1970年代、構成主義の新しい波は、環境彫刻として現れた。Dimesio-ryhmä は、芸術家と工学技術者の協働を目ざした。

美術に於けるフィンランド構成主義は、1950年代の幾何学的抽象絵画にはじまり、オブアートの系統やシリアル・アートの傾向を含みつつ、60年代まで絵画及び彫刻において、数学原理を追求した流れとしてあった。70年代の実験芸術の登場がアメリカの美術批評にも注目され、国際的な関心を集めた。

4. おわりに

フィンランド構成主義は、1920年代と50年代に、パリを経由した抽象絵画やバウハウスのデザインを継承する形で根を下ろした。建築・デザインにおける近代化は、西側との貿易の強化を通して、定着していったものと考えられる。1970年代まで国際的な評価を得る造形芸術が成熟しづらかったのは、前述した「フィンランド化」といった精神構造が影響していたと考えられる。

- 1 Catalog, *FINNISH CONSTRUCTIVISM*, organized by the Artists' Association of Finland and The University of Texas Art Museum, 1979. Catalog, *Forma és Struktúra; Konstruktivizmus a modern finn építészetben, képzőművészetben és formatervezésben*, Magyar Nemzeti Galéria Budapest, 1980.
- 2 D. カービー著百瀬宏、石野裕子監訳『フィンランドの歴史』, 世界歴史叢書, 明石書店, 2006年, p. 325.
- 3 Cf. George Rickey, *Constructivism — origins and evolution*, George Braziller New York, 1967.
- 4 Kirimo Mikkola, *Konstruktivizmus — építő gondolat, Forma és Struktúra*, p. 14.
- 5 *ibid.*, pp. 9–10.